復興1	令和8年度 地域課題研究ゼミナール支援事業　中間報告		
指導教員	石川工業高等専門学校　大橋慶介	参加学生数	13
連携ゼミ			
課題タイトル	災害避難場所の生活用水の確保		
活動地域	津幡町	連携団体等	井上地区まちづくり協議会
活動概要	津幡町井上地区では、R6年1月の能登半島地震の際に避難所が設置されたが、断水のため生活用水（飲み水用・仮設トイレ用）の確保に困難が生じた。今後も続く能登半島地震の余震だけでなく、津幡町近隣を通る森本・富樫断層による地震も懸念されるなか、多くの住民の避難生活をサポートすべき避難所の生活用水の冗長化が、今回の震災によって課題として浮き彫りになった。そこで、本活動では、避難所近隣における防災井戸を掘削し、生活用水の確保を目的とする。短期的には仮設トイレ用等のいわゆる中水、中長期的には飲み水用の上水の確保を目標とする。 特に地域住民の防災意識向上と自助・共助の精神涵養にも寄与したい。		
活動状況	5／8　67人　石川高専 環境・防災教室2026 in 井上小学校の実施 （児童54名、高専生13名、教職員・行政・地域スタッフ参加） 試掘孔を活用した手押しポンプによる地下水汲み上げ体験およびプール水汲み・導水デモンストレーションの実施、 防災井戸・プール・津幡川の試水を用いた水質浄化体験（水処理実験）および防災教育プログラムの実施 随時　1人（大橋）津幡町関係部署との、恒久的な防災井戸設置および条例に基づく環境評価手続きに関する行政調整・協議の推進 随時　15人（大橋研究室と高野研究室）水質浄化検証		
今後の予定	10月中旬以降、公民館敷地での簡易ボーリング調査を行う。適地を見つけ次第、恒久的な井戸としての設備を埋設・固定する。作業は専門業者ではなく、高専として実施する。並行して、井戸設置に伴う行政手続きを進める。次年度は、この恒久的な防災井戸によって再度、防災教室を井上小学校を対象に実施したい。		

活動の写真



